



株主優待に関するお知らせ

当社では、株主の皆様の日頃のご支援に感謝すると共に、より多くの株主の皆様に当社グループの事業に対するご理解を一層深めて頂くこと、また、当社株式への投資の魅力を高め、中長期的に当社株式を保有していただくことを目的に株主優待を実施しております。

今回は、株主の皆様以下2点よりいずれか1点をお選び頂き、お届けいたします。

株主の皆様におかれましては、引き続き、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

同封のはがき（株主優待申込書）に必要事項をもれなくご記入のうえ、
2019年9月30日（月）（消印有効）までにお申込みください

贈呈
内容

当社製品の
はがき・住所録作成ソフト

「筆ぐるめ」

または

「しいたけ詰め合わせ」



※写真はイメージです

「たのしく・かんたん・きれい」をコンセプトに、パソコン初心者でもかんたんに使えると評判のはがき・住所録作成ソフトです。

DVD版（Windows版）

当社特例子会社 富士ソフト企画株式会社
が、福島県耶麻郡西会津町で、農業のIT化、
農業の障がい者就労フィールドの2つをテーマとして、地元しいたけ農家と西会津しいたけファームを共同開設し、生産しているしいたけです。

贈呈
対象

2018年12月31日現在の株主名簿に記載または記録された1単元（100株）以上を保有する株主の皆様を対象として、株主優待を実施いたします。

同封のリーフレットに記載の「株主優待のご案内」を本招集ご通知に同封しておりますので、ご確認ください。

「全日本ロボット相撲大会」は30回目の記念大会を迎えました。

「全日本ロボット相撲大会」は、ロボット作りを通して、「ものづくり」の楽しさを知ってもらう場を提供することを目的に、1990年より開催している国内最大規模のロボット競技大会です。



ロボット相撲大会 History

1990年:第1回大会

日本発祥のロボット相撲大会“初”場所開催
創立20周年を記念して、国技の「相撲」と今後の先端技術となるテクノロジー「ロボット」を組み合わせ、日本のものづくりに貢献できるような事業として、ロボット相撲大会を開催



1992年:第4回大会

相撲の聖地“東京両国の「国技館」”初開催

1993年:第5回大会

文部省(現、文部科学省)の後援を受け、
高校生の部を新設し、地区大会をスタート

1998年:第10回大会

本記念大会で優勝した日本代表を海外遠征(アメリカ)に招待
2001年までに計4回の海外遠征を行い、世界各国にロボット相撲が広がるきっかけとなる



2001年:第13回大会

エントリー数が4,000台となる



2018年12月両国国技館において、30回目となる記念大会を開催いたしました。近年は、海外選手の技術レベルが大幅に向上しており、今大会は、全日本の全国大会と世界大会を統合し、真の世界チャンピオンを決める大会として2日間にわたり開催いたしました。

国内の全6か所で行われた地区大会を勝ち抜いた64台と、海外20か国から集まった76台が一堂に会し、総数140台のロボットが第30代横綱の称号をかけて熱い戦いを繰り広げました。

現在、この競技はロボットテクノロジーを学ぶ教材として世界中の方々に評価され、8万人を超えるロボット相撲の愛好家が存在しています。

当社は今後もロボット相撲大会を通じて、世界中の皆様が「ものづくり」にかける情熱と夢を育み、本大会が未永く続けられるよう尽力し、社会に貢献してまいります。

2005年:第17回大会

「第1回高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会」を初開催。ロボット相撲から派生したロボットアメリカンフットボール(ロボフト)は、ロボット同士がぶつかり合いながら一つのボールを奪い合う団体競技

2008年:第20回大会

世界大会の“初”場所開催
高校生の部と全日本の部の両部門で優勝した実績が評価され、三重県立四日市中央工業高等学校が第3回「ものづくり日本大賞」内閣総理大臣賞を受賞

2014年:第26回大会

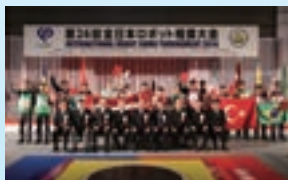
第1回世界大会「INTERNATIONAL ROBOT SUMO TOURNAMENT 2014」世界9カ国、41台のロボットが参戦

2017年:第29回大会

第29回全日本ロボット相撲全国大会
第4回世界大会「INTERNATIONAL ROBOT SUMO TOURNAMENT 2017」世界25カ国、120台のロボットが参戦

2018年:第30回大会

全日本大会と世界大会を統合し、「全日本ロボット相撲全国大会2018」(All Japan Robot Sumo Tournament 2018 Grand Final)として2日間にわたり開催。全国6か所で行われた地区大会を勝ち抜いた64台と海外20カ国から76台、総数140台のロボットが“第30代横綱”の称号をかけて熱い戦いを繰り広げる



富士ソフトのCSR②

》ライフスタイルに合わせた多様な働き方を支援

当社では、「ゆとりとやりがい」をテーマに、社員が様々な制度を利用し、個々のライフスタイルに合わせた多様な働き方ができるよう支援しております。また、残業時間削減や有休取得促進などの働き方改革に取り組み、仕事と生活の調和を目指して、社員一人ひとりが元気に働ける職場環境の実現を目指しております。

これまでの歩み

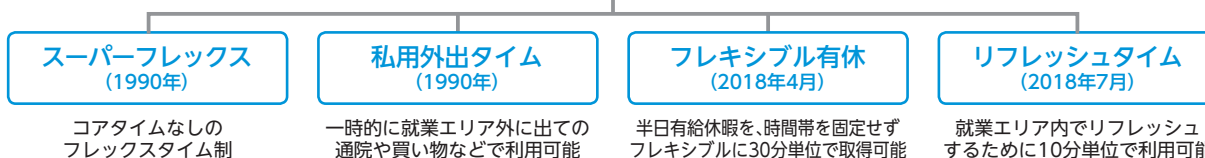
2012年以前	2013	2014	2015	2016	2017	2018
<ul style="list-style-type: none"> ★スーパーフレックスタイム導入(1990年) ★私用外出タイム導入 	ウルトラフレックス制度					<ul style="list-style-type: none"> ★フレキシブル有休導入 ★リフレッシュタイム導入
働きやすさへの取り組み						残業削減・有休取得促進
<ul style="list-style-type: none"> ■法定以上の育児・介護制度の導入 ■標準労働時間の短縮(8:00H→7:30H) 	<ul style="list-style-type: none"> ■在宅勤務制度の導入 			<ul style="list-style-type: none"> ■ノー残業デー導入 ■マイホリデー休暇導入 ■プレミアムフライデー導入 	<ul style="list-style-type: none"> ■残業80時間超過者ゼロを目標設定 	
						<ul style="list-style-type: none"> ■育児による短縮勤務期間延長(小学校卒業まで) ■副業の許可
<ul style="list-style-type: none"> ●本社・秋葉原オフィスに健康管理室を設置 ●リワークプログラムの導入 ●休職期間の通算化導入 ●全オフィス内の喫煙室を完全廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ●富士ソフトグループ健康管理センターの設立 					健康管理・復職者支援・禁煙促進の取り組み
						<ul style="list-style-type: none"> ●非喫煙社員に対し、「健康増進奨励金」の支給開始



働きやすさへの取り組み

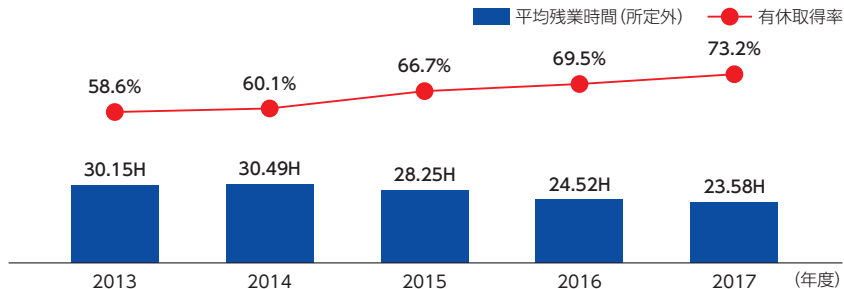
2018年7月より、コアタイムのないフレックスタイム「スーパーフレックス」を超える、柔軟な働き方を実現する「ウルトラフレックス制度」を導入し、社員の「ゆとりとやりがい」の拡充と共に、さらなる生産性の向上を目指し、取り組んでおります。

ウルトラフレックス制度



取り組み状況

過去5年間の平均残業と有休取得率



2017年度 制度利用状況

※()内は、男性の人数



テレワークの活用で、多様な働き方を実現

2013年より全社員に導入した在宅勤務制度は、2018年度は12月時点で、年間延べ人数約4,500人が利用しております。また、2018年7月23日～27日には、政府が推進する「テレワーク・デイズ」の取組みに参加し、この期間、東京・神奈川オフィス在籍者を中心に1,300人が在宅勤務やサテライトオフィス勤務により、テレワークを活用いたしました。



在宅勤務の様子



本部会議を
テレミーティングで実施

自立的なキャリア形成のために

日々発展するIT業界の中で、イノベーション企業であり続けるためにトップクラスのスキルレベルを維持することを目的に、以下の制度を導入しております。キャリアパスを明確化してモチベーションの向上に繋げ、社員一人ひとりの能力を開発・発揮しやすい環境づくりに努めております。



自己啓発奨励制度	自己啓発(資格取得)による社員のスキルアップを促進
スペシャリスト制度	専門スキルをスペシャリストとして認定する制度 実務実績や資格取得により、認定レベルを5段階で設定(2018年12月末現在 1,079名認定)
プロジェクトマネージャー認定制度	プロジェクトのマネジメント実績を基にプロジェクトマネージャーとして認定する制度 プロジェクト規模により、認定レベルを5段階で設定(2018年12月末現在 1,001名認定)

招集通知

株主総会
参考書類

添付書類

事業報告

連結計算書類

計算書類

監査報告書

株主通信
(参考)

富士ソフトのCSR③

→ 社会貢献活動への取り組み

当社は、東日本大震災発生以降、社内組織に「社会貢献室」を設置し、継続的に被災地・過疎地での支援活動を実施しております。更に、より地域に密着した支援活動を行うため岩手県奥州市にNPO法人「IT工房ひのき」を2012年11月に設置してICTの活用による支援活動を展開しております。また、これまでに培った災害支援の経験を活かし、近年多発する自然災害で被災された地域・被災者の方々へのボランティア活動や過疎地での里山保全活動、イベント支援活動など、活動の範囲を広げ社会貢献活動を行っております。

年間活動実績：27回・112名

→ 災害支援

西日本豪雨被災地の広島県に於いて、広島市南区の豪雨災害ボランティアセンターの運営を1ヵ月間ITで支援いたしました。当社の得意分野であるITを駆使した「Facebook特設サイトでの情報発信」などをはじめ、災害ボランティアセンターの設営や受付、ボランティア参加者への説明など運営支援も行いました。この活動により、情報発信することで関心が集まり、ボランティア参加の促進に貢献いたしました。



→ 被災地への義援金支援

西日本豪雨被災地の広島県へ義援金を謹呈いたしました。当社は、西日本豪雨により被災された皆様ならびにそのご家族の皆様をお見舞いし被災地の一日も早い復興を祈念致します。今後も、広島オフィスなどを通して、さらなる貢献ができるよう尽力してまいります。

→ 地域活性化支援

岩手県宮古市にて産業まつりのイベント支援を行いました。当社は、地域活性化の一助として「ITワークショップ」と題し、当社開発の人工知能を搭載したコミュニケーションロボット「PALRO」や小学生向けプログラミング教材ロボット「プロロ」などを使ったIT体験のブースを設置し、来場した多くの皆様楽しんでいただきました。



→ 地域支援

福島県大沼郡金山町にて雪かきの地域支援を行いました。金山町は奥会津に位置し、全国有数の豪雪地帯であると共に、住民の高齢化が進んでいます。屋根の上に積もった雪の重みにより、建物の倒壊や落雪などの事故を未然に防ぐため、参加した社員の手で雪かきの支援を行いました。

→ 教育支援

岩手県大槌町での「シニア向けパソコン教室」と田野畑村での「小学生プログラミング体験授業」を開催いたしました。パソコン教室では、シニアを対象にインターネットの利便性を体感いただくと共に、個人情報漏えいやウィルスの脅威などを説明し、ITの理解を深めながら、クリスマスカード作りを楽しんでいただきました。プログラミング体験授業では、当社が開発したプログラミング教材ロボット“プロロ”を使用して、小学生にプログラミングを学んでもらい、プログラムしたプロロを対戦させる相撲大会を行いました。



→ 教育支援

NPO法人を通じ2008年より継続的に中高生の企業訪問学習を受け入れています。当社秋葉原オフィスのマイクロソフトクラウドセンターやショールームを使い、AI（人工知能）やVR（仮想現実）などの最先端技術に触れICTの楽しさやものづくりの面白さを体感いただきました。また、社員が実際に就業する職場や社員食堂なども見学していただき、仕事に対する興味や関心を深めていただきました。

→ 社会貢献

日本赤十字社を通じ、企業集団献血を実施いたしました。少子高齢化や献血者の減少による血液不足の解消に協力するため、当社の敷地内に臨時的献血会場を開設し、社員だけでなく、テナント会社様、近隣の方々などからも献血のご協力をいただきました。



→ 地方創生支援・障がい者就労支援

当社特例子会社の「富士ソフト企画株式会社」では、農業の空洞化及び地方創生に寄与するため、「ITによる新しい農業」を行っております。この事業を通じ、働く場を提供する事で、若者の流出を防止し、さらには、移住者促進を西会津町と共に進めております。また、ここで生産するしいたけは、視覚障がい者が中心となって栽培し、全国サンマッシュ生産協議会の品評会で、2016年から3年連続で金賞を受賞いたしました。今後も、ITによるしいたけ栽培の品質向上とともに、会津の自然と農業体験による自然治癒効果を活かした障がい者の就労移行を支援し、安心安全で美味しいしいたけを供給してまいります。

2018年の 社会貢献の 活動実績

東日本大震災追悼イベント支援、災害復旧ボランティア、被災地の海岸清掃支援、災害被災者用仮設住宅の環境保全支援、災害義援金、産業祭りや夏祭りイベント支援、三陸・西会津企業マルシェ、雪囲い・雪かきボランティア、過疎地域での農地・用水路の整備、シニア及びジュニア向けPC教室、小学生向けITワークショップ、企業訪問受け入れ、企業集団献血、オフィス周辺での地域清掃、ユニセフ募金活動支援、地球温暖化防止ライトダウンキャンペーンへの参加など

招集（通知）

株主総会
参考書類

添付書類

事業報告

連結計算書類

計算書類

監査報告書

株主通信
（参考）